





# 閉果 女性たちの声と教会

私たちはみな、等しくいのちの尊厳が守られ、神のみ業に招かれています。しかし教会には、その実現を阻む、解決すべき問題が数多く残されています。その一つが女性の権利に関する問題です(教皇フランシスコ 使徒的勧告『福音の喜び』104)。本号では、プロテスタント女性聖書学者にお話を伺いました。

# 聖書翻訳についてフェミニスト神学から願うこと

# ■山口里子 (聖書学者)

2019年9月28日の日本キリスト教協議会 (NCC) 女性委員会主催フォーラムで聖書翻訳に関して話させていただきました。その話の中のジェンダー関連を要約紹介するようにご依頼をいただきました。かなりの短縮ですが、「正義と平和」に関心をお持ちの皆様と少しでも思いを共有できたら嬉しく思います。

#### はじめに

人々が聖書を読む時はたいがい原語でなく翻 訳版を読みます。そして**翻訳は解釈**です。つま り翻訳者の解釈で翻訳は変わり、それを人々は「聖書正典」として読みます。このことを留意して聖書翻訳の影響力を考えたいと思います。

### I. 神とジェンダー・イメージ

神のイメージが一つのジェンダーに固定されると、そのジェンダーの人が統治者にふさわしいという感覚が人々の間で内面化されます。ところが多くの日本語訳聖書では原語に無いジェンダーの偏りがかなりあり、問題です。

\*「ヤハウェ」。ヘブル語聖書(旧約聖書)で「ヤ

ハウェ」は神の「名」として最も多く6千回使 われています。「ヤハウェ」は「主(なる神)」と 訳されていますが、「主」は「アドナイ」です。 「ヤハウェ」には「主」の意味は無く、語源は 「生命 | 「存在 (居る) | ですから、「いのちの神 | という訳語が原語に近いでしょう。

この語が根拠なく「主」と訳されて、神 イメージが強く男性に偏りました。それも、 「主」は父権制社会 (男中心タテ社会) の支配者と 同じ呼び名です。神を「主」と呼び続けて「主 への服従=信仰」と感じられていくと、社会の 底辺に生きる人々の尊厳が軽視され易くなると、 広く指摘されてきました。

21世紀、人の生命も地球の生命も大切にされ ることは必須課題です。「ヤハウェ」の原語を尊 重し、ジェンダーを越えた「いのちの神」と呼び かけて、「小さないのちを与え、共に居ます神」 を思い描き続ける時、私たちは世界の様々ないの ちを尊重する平和な社会への意識が高められる のではないでしょうか? (『新しい聖書の学び』参照)。

\*「知恵なる神」。ヘブル語聖書は神を様々な女 性の姿で描いていますが、その一つが「知恵な る神 | です (箴言1・20-21, 8・1-4, 9・1-6, 知恵の書など)。 しかし日本語訳ではこの女性イメージの神は消さ れています。福音書のイエスにまつわる古い話 (早い時期から語られた伝承)では、イエスが「知恵なる 神」から遣わされた預言者と思われていました。 正典内外の文献に断片化されて見られる「知恵 なる神」は、「罪人」とされる人々に、「重荷を負 い疲れている人は私の所に来て食べて飲んで休 みなさい。真実の知恵を持って幸せに生きなさ い」と呼びかけます。このイメージがイエスの生 き様に重なって、人々はイエスを「知恵なる神」 の預言者だと思ったのでしょう。この大切な神イ メージを回復したいです (『新しい聖書の学び』参照)。

\*神の言葉遣い。神が語る言葉のジェンダー・イ メージも大きな影響力を持ちます。日本語訳では、 神の言葉は男の支配者が語る印象が強いです。聖 書の神は性別を超えた存在ですから、一つのジェ ンダーに偏らない言葉遣いへの配慮が必要です。

### Ⅱ. 人間とジェンダー・イメージ

\*「アダム」。創世記で「アダマー」(±)から 作られた「アダム」(土くれ)は「男」と解釈され てきました。しかし聖書の原語はヘブル語もギ リシャ語も「古代男性中心言語」で、性別を越 えた「標準形」をそのまま「男性形」としても 使い、女性限定の事柄のみ「女性形」を使いま す。そして「アダム」は「標準形=男性形」で 書かれており、性別の無い始めの状態でも、人 が2人になって性別が出来た後でも、単数形で も、男女両方を指す複数形でも、使われていま す。「アダム」が男性の名前になるのは、女性 が「エヴァ | (いのちの母) と名付けられた後 (5章) です(創世記1・26-27、2・22-23、5・1-3)。「アダム」 を始め、「標準形=男性形」の使われ方に注意が 必要です(『新しい聖書の学び』『虹は私たちの間に』参照)。

\*「向かい合う同伴者」。創世記で「人が一人 でいるのは良くない」として造られたもう一人 の人間は、日本語では「ふさわしい助け手」 (創2・18,20) と訳され、「女は男のために造られ た」という男中心の人間理解を促進させて来ま した。しかし原語は「向かい合う同伴者」です。 神は人を上下でなく対等な関係に作り、そのよ うな生き方が人を幸せにするという聖書のメッ セージは、聖書が書かれた何千年も昔の父権制 社会でも、現代においても重要で、大事にした いです(『新しい聖書の学び』、『虹は私たちの間に』参照)。

\*人の言葉遣い。日本語訳聖書では、人々の会 話に原語に無い上下関係のニュアンスが至る所 に入っています。特に男から女へは上から下、 女から男へは下から上へ話すイメージです。こ のような女性差別の慣習的翻訳は男尊女卑を再 生産し、対等な人間関係を阻害します。日本文 化の平等な未来に向けて、意識を高めることが 必要です(『彼女を記念して』の「あとがき」参照)。

\*「ペトロの義母」。彼女は日本語で「イエス をもてなした」(マタイ8・15) と訳されました。原 語「ディアコネイン」は「宣教奉仕」の意味で、 ペトロの義母は「仕え続けた」という表現が使 われ、宣教活動に従事し続けたことが明白です。 にもかかわらず同じ言葉が、主語が男なら「(宣

教活動で)仕えた」、主語が女なら「もてなす」と訳し分けられてきました。ひどい女性差別の再生産が、2018年版の聖書協会共同訳聖書でようやく「仕えた」と訳されたのは一歩前進です(『新しい聖書の学び』参照)。

\*女性のパン作り。この話はイエスの譬え話の中で最もイエスの生の声が残されていると言われます。その話の中でパン種を粉に「混ぜる」と訳されている言葉があります(ルカ13・21)。しかし原語は「隠す」です。パン作りで使われない「隠す」という言葉を、何故イエスは使ったのでしょう?

当時の人々は「神の国」は「立派で、清く、正しい」人々が入る所だと教えられていました。その「神の国」を語るのに、イエスは「女・パン種・隠す」という言葉を使いました。当時の文化では、「女は不浄」・「パン種は(パンが腐った物で)不浄」・「隠すは(正々堂々とした態度ではなく)不正・不浄」と見られていました。つまりイエスは、人々が否定的に決めつけていたことを三重に使って、「神の国」はそこから生まれると話しました。こうして人々の常識を根本的に問い直したのです。こういうイエスのメッセージに教会はもっと真摯に向き合うべきだと強く思います(『イエスの譬え話②』参照)。

\*「ユニア」。ローマ書で男性名「ユニアス」と訳されてきた言葉は、原語は女性名「ユニア」です (ローマ16・7)。「卓越した使徒」と書かれているゆえに男性名にされて来ました。これも今回ようやく女性名が回復されました(『マルタとマリア』参照)。

Ⅲ.「セクシュアリティ」と「性行為」に関する所 \* レビ記。同性愛者断罪の根拠にされて来た 箇所がレビ記に2つあります (レビ18・22, 20・13)。 しかしそこは「男と男が寝てはならない」という単純な表現ではありません。ここの表現は古代社会の文化的背景から見ると、「男の下位である者 (女) の役割を、性交において男に担わせてはならない」です。ですから、例えば男と 男が上下関係ではなく対等な関係で性交をする

ならば、ここで否定された対象になりません。 しかし、そもそも「男(上・支配者)」対「女(下・ 服徒者)」という人間観は、神の意思でしょうか? もしそうでなく古代の一部指導者の思い込みだと 理解するならば、この意識を持って現代における 性的少数者断罪という人権侵害を再生産しないこ とが不可欠です(『虹は私たちの間に』参照)。

\*コリント書。コリント書で使われている言葉「男娼」「男色をする者」(ーコリント6・9)も、明白な誤訳です。原語は「自制力の無い者」「性的搾取をする者」の意味です。この2つの言葉は時代の流れで訳語が変わり、おおむね「性的不道徳(当時の男の自慰行為、出産目的でない性交など)」の意味で訳されました。ところが20世紀に急に何の根拠も無く、性的少数者を貶める訳に変更されました。これも実に歪んだ翻訳です(『虹は私たちの間に』参照)。

\*ローマ書。同性愛者断罪の根拠として最も多く使われて来た言葉がローマ書にあります(ローマ1・26,27)。ここで男女の「自然な関係」と訳されている言葉は、原語は「自然な使用」です。当時のエリート男性は、性行為を相手との「関係」とは考えず、上の者が下の者を(道具として)「使用」することだと考えていました。パウロもその考えを前提にして、正しく自然な性行為を教えています(『虹は私たちの間に』参照)。

実は、古代エリート男性の非常に差別的な人間観に基づくパウロの言葉は、身分差別(ガラテャ4・21-31など)と共に、「女は黙って男に従え」というような性差別がウンザリするほど有ります (特にーコリント11章以下)。私たちは、パウロに染み込んだ差別的な人間観を認識した上で、その上でこういう教えをどう受けとめるのか考えることが大切でしょう。そうでなければ、差別的な人間観を、教会で再生産し続けるからです(『いのちの糧の分かち合い』参照)。

\*「タペイノーシン」。福音書に書かれたイエスの母マリアの歌に性的な苦悩の言葉「タペイノーシン」(ルカ1・48) があります。これは「(性的) 辱め」の意味です。原語の直訳は「女奴隷の(性的) 辱めを神は顧みてくださった」です。

ここの「女奴隷」は、マリアが奴隷ということ ではなく、「何よりも神に従って生きる」とい う当時の信仰表現です。そのマリアの言葉は、 「あくまでも神に従って生きる私が受けた性的 な辱めの苦悩に、神は寄り添い支えてくださっ た」という意味です。ところが日本語訳ではマ リアの性的な苦悩が消され、以前は「身分の低 い」、今回は「この卑しい仕え女」に訳されま した。女性の自己卑下を更に促すヒドイ翻訳で す(『いのちの糧の分かち合い』参照)。

福音書によると、マリアは思いがけない性的 な苦悩を経験した時、エリサベトの所に行って 滞在し、共感と連帯の中で支えられて勇気を出 しました。女性は「受容」を美徳とされた文化 の中で、主体的に自己決定で行動し、ヨセフに 信頼と決断を求めて「サバイバー」になったの です。

ちなみに、これを学んだ女子大生の圧倒的多 数が、カトリック系もプロテスタント系も、クリ スチャンも無宗教の学生たちも、同様の応答を して来ました。もし教会が原語のマリアの言葉 を伝えていたら、どれほど多くの女性が救われ ただろう、キリスト教がどれほど魅力的に感じ られただろうと。このように、マリアの言葉の 意味を学んで「本当に癒された|「救われた」と 言う女性たちは、年齢を越えて大勢います。こ こでも、原語を歪めた翻訳は実に残念です。

\*洗礼宣言。最初期クリスチャン共同体の洗礼 宣言があります。

あなたがたは皆、神の子どもたちです。なぜなら、キリ ストの中へと洗礼を受けた人たちは皆、キリストを着た のです。ユダヤ人もギリシャ人もありません。奴隷も自 由人もありません。男と女もありません。なぜならあな たがたは皆、一人だからです(ガラテヤ3・26-28でパウロ が引用)。

当時の社会で人々を分断していた3つの境界 線(民族・身分・性別)を、クリスチャン共同体は 全て乗り越えるというラディカルな平等主義の 宣言です。しかし、それだけではありません。 そこで「男と女もありません」は、先の二つ (「~も~もありません」) とは形を変えて書かれてい

ます。更にここの「男と女」は「オスとメス」 という生殖関連の表現で、神が人を「男と女」 に造られた(創世記1・27)のと同じ表現です。創 世記の話は、人間の「性」が祝福を持って与え られたことを表現しているのですが、後になっ て、人は「男と女」が結婚して子どもを持ち 「夫と妻」として生きるのが正しいというよう な教えに使われるようになりました。

そのような状況で最初期クリスチャンたちが 官言したのは、もはや私たちは「男と女」の一 対として結婚して子どもを持ち「夫と妻」とし て生きるという世間の常識に縛られないというこ とです。この宣言は、当時の父権制的な結婚を 望まなかった女性たちや、「性的少数者」の人々 や、自分の「性」を暴力で奪われた奴隷たちな ど、多くの人々が解放されるものだったでしょう。

この表現がこれまで「男も女もありません」 と訳され、特別に解放的な意味合いが消されて きました。今回修正されて良かったですが、最 初期クリスチャン共同体の大切な宣言に本気で 向き合う意識を高めたいです(『虹は私たちの間に』 参照)。

#### 結び

私たちは聖書を読む時、無意識に信仰的な思 い込みで理解しない注意が大切です。もし私た ちが、キリスト教の神は差別と暴力の神ではなく、 慈しみと正義の神であり、様々に異なる1人1人 を大切にしてくださる神だと信じるならば、聖書 の社会・文化的背景を学びつつ、色々な差別と 闘っている人々の「声」を聞きながら、互いに学 び合い、偏見差別・人権侵害に挑戦して明るい 未来へ共に向かうことを心から願います。

### 主な参考文献

エリザベス・シュスラー・フィオレンツァ『彼女を記念し て:フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』 (山口里子訳、日本基督教団出版局、1990年)。

山口里子『マルタとマリア』(2004年)、『虹は私たちの間 に』(2008年)、『新しい聖書の学び』(2009年)、『いのちの 糧の分かち合い』(2013年)、『イエスの譬え話②』(2017 年)、以上新教出版社。

# 韓国のミレニアム世代が平和と人権を愛する方法

## 一慰安婦問題の解決と暴力のない世界のための青年の連帯一

## **■チョン・ダビン・メラニア**(韓国イエズス会人権センター)

韓国には、マリーモンド(MARYMOND) という花の刺繍が入ったファッション雑貨ブラ ンドがある。ソウルの街では、マリーモンドの ロゴの入ったバッグや携帯電話ケースを持つ女 の子たちを、あちこちで見かけることができる。 だがマリーモンドの人気は、単にかわいいデ ザインだからではない。マリーモンドは自らを 「人権のために行動し、暴力に反対するライフス タイルブランド」と紹介する。韓国の女の子た ちは、マリーモンドが語る人権と平和の価値に 共感しているから、マリーモンドの製品を買う。

マリーモンドは、慰安婦ハルモニたちの生き 方と勇気にインスピレーションを受けて始まっ た。グッズに刺繍されたムクゲ、野菊、マグノリ ア、ツバキ、ジャカランダ、黄色いバラ、ナデシ コなどの花々は、すべて一人一人の慰安婦ハル モニたちの人生を表している。なかには、こんな のただお金を使って終わるだけだ、と批判する人 もいるようだが、私はマリーモンドの人気の背景 に、創造的で美しい方法で人権と平和の価値を かみしめるミレニアム世代の感受性を感じる。

毎週水曜日正午、ソウルの日本大使館前では、 日本軍慰安婦問題の解決を求める「水曜集会 | が行われ、90才を超える慰安婦ハルモニたちが、 いまも病気の体をひきずって集会に参加してい る。しかしここに集まるのは慰安婦ハルモニや活 動家だけではない。10代から80代まで、男性、女 性、性的マイノリティ、外国人、じつにさまざま な人々がこの集会にやって来る。この集会をリー ドするのは10代から30代の若い女性たちだ。そし て、慰安婦問題解決のための全国大学サークル連 帯「平和ナビ(蝶)ネットワーク」の活躍がある。

こんなふうに、ふだんは自己中心的と批判さ れる韓国の若者たちが慰安婦問題の解決に特別 に熱心なのはなぜだろう。もちろん彼らは日本 政府に慰安婦問題の真相究明と謝罪、補償を要 求する。加えて、問題の根本的な解決を避け ている韓国政府に 対しても怒ってい る。だが彼らはた だ「慰安婦問題の 解決しのためにだ け、集会に参加し ているわけではな

高校生や大学ー 年生の時に初めて 水曜集会に参加し た若者たちが、深



い痛みを乗り越え、人権と平和のために生きる 慰安婦ハルモニたちの姿を見て「人生ではじめ て尊敬できる人に出会ったと思えた」と話す。 水曜集会は、若者たちにとって、ハルモニたち の存在を通して、平和と人権の価値を学び、よ りよい世界を夢見る場なのだ。

今年1月にこの世を去った日本軍慰安婦被害 者、キム・ボクトンハルモニも、自らの痛みを 乗り越え、全世界の戦争被害女性の人権のため に立ち上がる平和運動家となった一人だ。平和 ナビネットワークの若者たちも同様に、すべて の苦しむ人に手を差しのべ、あらゆる暴力に反 対して人権運動に参加する。上述のマリーモン ドも、虐待児童支援や人権保護の支援をしてい る。その方法もまた新しい。彼らはダンス、歌、 絵、漫画、短編映画や演劇公演を通して、非暴 力平和と人権、世界のために運動する。

私は、慰安婦ハルモニの痛みに共感し、慰安 婦問題の解決に積極的に参加する韓国の若者た ちに希望を見る。慰安婦問題の解決は、まず何 より、歴史の正義、国家の謝罪と補償の実現だ が、それを超え、いかなる差別も暴力もない平 和な世界に向かう決意でもある。若者たちの慰 安婦ハルモニへの共感と運動参加は、あらゆる 暴力に反対し、すべての人間の尊厳のための連 帯へと続いている。



# あなたもいっしょに

# ■ 臼井一美 (団体職員)

はじめまして。臼井一美と申します。35年 ほど前に、プロテスタント教会(日本バプテ スト連盟という小さな教派です) に足を踏 み入れてから、いろいろなことはありますが、 「イエスが指し示そうとした神」を信じたいと 願い、「平和と正義が実現された神の国」が来 ることを願っている、一人のキリスト者です。 フェミニスト神学、クイア神学を学び続けて おり、日常的には、国際NGOで働いています。 カトリックとプロテスタントはさまざまな意 味で違いがあります。その違いは違いとして、 けれどもなにかいっしょに考えることはできな いかと、日本のキリスト教界は模索を続けて いるところだと思っています。またプロテスタ ント教会の中でも、当然のことですが、さま ざまな違いがあり、それらを認識しつつ、違 いは違いとして共に働くことを考えています。 そういうことを積極的に考えていきたいなと 思っている人たちはたくさんいて、私もその 中に加えてもらってる、という感じです。

プロテスタント教会では、少しずつ「女 性教職 (牧師・司祭など)」が増えてきました。 まだまだ半数には全く足りませんが、それで も気をつけていれば見かけるようにはなって きたと感じています。またハラスメント(セ クシュアルハラスメント、パワーハラスメン ト、モラルハラスメントなど。教職が教会員 に対して、教職同士、教会員同士など様々な ケースがあります)に関して、きちんと対 応しようという教派も増えてきました。まだ まだ足りない部分は多いですが、少なくと も「どのように対応すれば良いか」というこ とを考えることを誠実にしている人々がいま す。それから、教会の様々な決定機関に「女 性を入れよう」という動きもあります。教会 も日本の社会の中の1つの組織ですから、日

本社会を取り巻く状況と無縁ではありません。 「男性優位主義」である日本の中で(日本は ジェンダーギャップ指数が世界149カ国の中 で110位)教会の運営機関、決定機関にはか つては男性ばかりでした。教会員には女性の 方が圧倒的に多いのにも関わらず。そこを変 えていこうという動きも徐々に出始め、実際 に変わってきていると感じています。日常の 中でもかつては「料理を作るのは女性」「力 仕事は男性」というジェンダー(社会的・文 化的な性、差別を含みます) が教会の中でも まかり通っていました。少しずつではありま すが、「得意なこと、できることを性別に関 係なく行う」「できなくても、これまでして こなかった性別の人たちが努力する」という ことを行い始めています。またここまで「女 性|「男性|と書いてきましたが、セクシュ アリティに関する学びを深め、そのような 「区別」をやめた教会も少数ですがあります。

これらのことは必死の思いで、「声をあ げ」「波風を立て」「なんとか変えよう」とす る人々(女性だけではありません)がいたか ら成し得たことです。その道はまだまだ半ば で、「声をあげる」人たちがやゆされ、いや しめられることも頻繁に起こっています。そ れでも変えなければ、と思って活動を続けて きました。なぜでしょうか。それは、イエス が指し示そうとした神は、私たち全てを平等 に公正に創られたはずで、それを捻じ曲げて いるのは人間だからです。「聖書」と呼ばれ る書物には、それを裏付けてくれる箇所がた くさんあります。「教会」は神の国の祝宴の 先取りでありたいと願います。なのに、社会 よりも遅れてさえいる。抗っていきたいと思 います。カトリック教会ではどうでしょうか。 あなたもいっしょに、考えていきませんか?

# 太陽か、月か、あるいは両方

# ■栗田隆子 (非正規労働者/文筆業)

私は、自己紹介などで自分の思想的背景を説明 するときに「カトリック信徒で、そしてフェミニス トです」と伝えることが多い。カトリックの人た ちはフェミニズムを知っている人が少ないせいか、 この説明に対してあまりピンとこない様子を示すこ とが多かったが、その逆-フェミニストの人たちに カトリック信徒であることを話すと、とても不思議 に思われることがある。それはそうだろう。教皇 や司祭は男性しか認めず、基本的に離婚を許さず、 さらには中絶を認めないというカトリックの規範と フェミニズムはどう考えても真逆の主張だからだ。

このような思想的対立のあるカトリックと フェミニズムであるが、私が生きていく中で一 番「根本的にこれは違う!」と感じたことは 「力」「光」あるいは「弱さ」の捉え方だった。 そして根本的に違うからこそ、私はカトリック とフェミニズムのどちらも必要とせずにはおれ なかった。もっと言えばカトリックの世界にい るとフェミニズム的な感性が恋しくなり、フェ ミニズムの世界にいればカトリックの感性が恋 しくなることを、今日はお話ししたい。

この説明だけでは何がなんだかわからないと いう方もおられるであろう。それではまずかの 有名なフェミニズムというか、やや古い言い方 で言えば女性解放論者であった平塚らいてふの この言葉を引用してみたい。

元始、女性は実に太陽であった。真正の人 であった。/今、女性は月である。他に依っ て生き、他の光によって輝く、病人のような 蒼白い顔の月である。/さてここに『青鞜』 は初声を上げた。/現代の日本の女性の頭 脳と手によって始めて出来た『青鞜』は初声 を上げた。/女性のなすことは今はただ嘲り の笑を招くばかりである。/私はよく知って いる、嘲りの笑の下に隠れたる或ものを。

フェミニズムは「他に依って生き、他の光に よって輝く」生き方に対して疑義を呈してきた。 なぜならずっとそのように女性は強いられてき たから。個々の父や夫のみならず、社会制度や 社会構造によって女性が「他に依って生き、他 の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の 月」であることを強制されてきたからだ。ずっ と自分から輝くことを許されず、自分には力が ないと信じ込まされ太陽 (男性) に依存する形 でしか存在できなかったことを、女性に選挙権 すらない時代に平塚らいてふは喝破したのだ。

他方で、17世紀にカトリックに改宗したとい うシレジウスという詩人がいた。彼はブレスラ ウ(旧ドイツで現在はポーランド)出身の人物 だが、いくつかの瞑想詩集と呼ばれる短い詩を 残している。以下、彼の詩をひとつ引用したい。

太陽によって霊化される月 私は月になりたい。イエスよ、あなたは太 陽であってほしい。そうすれば私の顔は永 遠の歓喜と至福に満たされるだろう。\*1

自分の力で輝くことを望むありようと、神の 力にたより輝くことを望むありよう。これをど のように捉えるべきか-と考えるとき、まず私 は自分がカトリックに出会った頃のことを思い 出す。

ちょうど私がカトリックに出会ったのは1980 年代後半でバブル絶頂期。暗いこと、静かなこ とは「根暗」という言葉でバカにされ、「ダサ い」という言葉でその価値を見出されることは なかった。人をバカにしてもいいから声を大き くして明るいことがよしとされていた時代に私 は洗礼を受けたのだが、その時にシスターが 語った「イエス様は神の恵みを、完全なまでに

受け取った人」であり「祈りとは、神の恵みを 受け取るために、時には弱い自分を神に向けて 正直に語り、そして神の言葉に耳をすませて聞 くこと」であると知った時の私の衝撃といった らなかった。いわゆる弱さを自分で意識するこ と、耳をすませて聞くこと、静かであることは 学校の中でも外でもバカにされることはあって も、それを大切だと語る思想に出会ってこな かったからだ。男女雇用機会均等法の成立後の 1980年代後半、「男性並みに」に活躍する女性 ならよしとする動きが出てきた中で、自分の弱 さや気持ちや感情に心を傾け、そして神の声を 聞くために静かに祈ることの大切さは、シレジ ウスの語るようにイエスを太陽の光として受け 取り、自分はその光の下にいる喜びに重なるも のと思う。

他方で、私は30過ぎから女性の労働問題およ び貧困問題に自分自身の問題として直面したの だが、女性の労働問題において感じてきたこと は、女性の力を低く押さえつけることの問題 だった。女性の労働待遇の条件を悪くするこ とによってその労働現場が殺伐としていく姿 だ。具体的に言えば女性は仕事の実力があるの にそれを例えば「パートだから」「子供がいる から」などなどで、真っ当な待遇を要求できな い状況において、すべての女性とは言わないま でもかなりの女性はピリピリとするし、さらに 今度は、例えば仕事ができないけれども彼女よ りいい条件で仕事をしている人をいじめたりす るようなことさえ実際に起きてしまう。あたか もマルタとマリアの姉妹のマルタが"仕事をし ない"マリアを叱りつけるがごとく。キリスト 教の伝統的な見方ではマリアの方が大事な仕事 をしているがマルタはそれを理解していないと いうニュアンスだが、私はパートやアルバイト で現場を仕切って働いている女性にマルタの姿 が垣間見え、むしろその力をきちんと見積もら ないこの社会に怒りを覚える。こういうことを 言うと「いや、女性は素晴らしいからこそ、下 支えもできるのですよ」的なことを言って、女 性の立場を少しも変えようとしない人がいるが、

そのような人には映画監督のケン・ローチの下 記の言葉を読んでもらいたい。

私は、映画を通してごく普通の人たちが持 つ力を示すことに努めてきました。弱い立場 にいる人を、単なる被害者として描くことは しません。なぜなら、それこそ特権階級が望 むことだからです。彼らが最も嫌うのは、弱 者が力を持つこと。だからこそ、あなたが映 画で示してきたことは、重要なのです。私た ちには、人々に力を与える物語を伝えていく 使命があります。自分たちに力があると信じ られれば、社会を変えるかもしれない\*2

このケン・ローチの思想的立場を本人の言葉 を借りて説明すれば「私に左翼かと聞くのは、 ローマ法王(ママ)にあなたはカソリック教徒 ですかと聞くようなもんだよ」とのことである。 映画を見る限りケン・ローチはフェミニストと 言い難いところもあるが、この場合「自分たち の力」と対比されるのは神の力ではなく「企 業」とか「国家」といった人間の階級的かつ集 団的な力である。階級的かつ集団的な力に価値 があるのではなく、人間であり女性である私に 価値があり、力があると信じることは特権階級 (場合によっては男性) の暴力を拒むことにつ ながるからこそフェミニズムは私にとって大切 なのだ。他方で自分の中にある弱さや、拭いき れない痛み、どこに向けたらいいのかわからぬ 不安を伝えることで神様は私を受け止めてくれ る。そしてそれを受け止めてもらうことでまた 社会的な場所へ立ち返る力さえくれるときがあ る。それは神がもたらした「光」でありながら、 社会的な場所をも輝かす「光」でもある。私は 神から輝きを受ける月でもあり、しかし暴力を 拒み闇を払う太陽でもある。私は月であり太陽 なのだ。

- \*1 『シレジウス瞑想詩集』岩波文庫 1992.3
- \*2 NHKクローズアップ現代+ (2019年9月17日放送) 「是枝裕和×ケン・ローチ "家族"と"社会"を語る」 https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4325/

## 第 2 回 高江・新月の森から…

# 美しい森で暮らす

# ■安次留雪音 (沖縄県高江「ヘリパッドいらない」住民の会)

ここ高江は沖縄本島の北部に位置し、世界 的にも貴重な自然環境で、生物多様性のとて も豊かな森の中にあります。この美しい森に 心惹かれ、自分たちで家を建て、カフェを開 業し、子どもも増え、楽しく暮らしていました。

しかし、この高江の集落を囲むように米軍 のヘリパッドを6カ所建設することが日米で 合意したということを2006年2月に新聞報道 で知りました。私たちの暮らしは一変しまし た。ヘリパッドができてしまうと、集落の上 空を沢山の米軍ヘリが訓練をすることになる。 私たちは常に騒音や墜落の不安に脅かされな がら暮らさなければならなくなります。沖縄 防衛局や防衛省などに何度も何度も訴えて きましたが、私たちの声を聞いてくれるこ とはなく、残された最後の手段は現場で座り 込みをして訴えていくことでした。この美し く大好きな森で戦争の訓練をすることも、私 たちの暮らしが脅かされることも、耐えられ ません。座り込みを始めて12年が過ぎました。 2016年には全国から機動隊が約1000名集まり、 力づくで強制的にヘリパッドが造られ、米軍 に引き渡されました。その時、私には絶望し かありませんでした。真っ暗闇です。こん なに頑張ってきたのに、私たちの人権や暮ら しは国によって踏みにじられました。身も心 も疲れ果てた私たちは、高江を離れて、反対 運動とかしなくてもいい場所で平和に暮らし たいと思い、新たに住む場所を探し始めまし た。高江を離れてしばらくはヘリパッドのこ とから解放されることで気持ちがとても楽に なり、このままこうして暮らしていけたらい いなあと思いました。しかし、日が経つにつ れて高江の美しい森が恋しくなってきたので



安次嶺さん一家が経営するホテル 森宿山甌 (**2** 0980-43-2624)  $\mathcal{A} - \mathcal{W}$ : moriyado.yamagame@gmail.com ホームページ: http://www.mco.ne.jp/  $\sim$  yamagame (沖縄 やまがめ で検索。)

す。高江に戻りたい。私にとって、この森は 特別なもので、この森で暮らしたいという思 いが溢れました。結局住居は一時隣村に移し ましたが、高江の自宅では新しく宿泊施設を 造り、宿を始めることにしました。

今まで私の心は米軍のヘリパッド建設にず いぶん持っていかれてしまい、嫌だ嫌だとい う、重い思いにとらわれていて、それが色ん な場面で負のサイクルを生んでいたのだと思 います。今は、こんな美しい森で戦争の訓練 が続くことなどあり得ない、と信じています。 そして、軍隊がいることができなくなくなる くらいいい場所にしていこうと思っています。 ヘリパッドはもちろん世界の軍事がなくなる ように声を上げながら、私たちが心から楽し く暮らすこと、沢山の人たちがここで癒され るような場所をつくることを続けていきます。 私たちにできることは沢山あります。明るい 未来をはっきりと目の前にイメージしながら、 それに向かってこれからも楽しく進んでいき ます。子どもたちに平和で美しい環境を手渡 すために。

# 日韓和解への歩みの一歩

## ■光延一郎(日本カトリック正義と平和協議会秘書)

2019年10月9日、南北境界線に近い韓国パ ジュ市にあるカトリック東北アジア平和研究所 で、国際学術大会「朝鮮半島と東北アジアの平 和に向けた宗教の役割―日韓関係の歴史、そし て記憶の治癒」が開催され、日本カトリック正 義と平和協議会会長の勝谷太治司教と同秘書の 光延が参加した。

この会議は、南北統一を優先課題とするウィ ジョンブ教区のイ・キホン司教のイニシアティ ブのもとで開催され、ロシア、米国、韓国、日 本から、研究者、仏教やプロテスタントの人々、 カトリック聖職者など200名ほどが参加し、活 発な議論をくりひろげた。

勝谷司教は基調講演で、3月に正義と平和協 議会会長談話「三・一独立運動100周年を迎え て」の内容が報道された後、カトリック教会内 をはじめ、さまざまな人から談話の歴史認識に 対する非難が殺到したこと、また最近の日韓関 係悪化により、札幌でも韓国人観光客が激減し ているなど、残念なことが続いていると話し た。また日韓関係の改善のためには、両国政府 が人権や歴史問題を中心に置き「互いに相手に 近づき、相互の痛みや問題に共感し、その相互 尊重と信頼に基づいて解決方法を見つけること が最も重要である」と強調した。さらに、日本 の教会が、長い間、憲法9条の平和主義を守る ために努力してきたことに触れ、北東アジアの 平和のためにも、教皇フランシスコが強調され る「非暴力による積極的平和」を実現する方策 を教会自らが探さなければならないと語られた。

会議参加者は、悪化している日韓関係への強い 懸念を共有しつつも、日韓両国が分かちがたい隣 国であることを確認し、次のことを話し合った。

「日本軍慰安婦 | 問題についての「和解・癒 やし財団」の解散、韓国大法院の元徴用工への 賠償命令判決などから発する日韓葛藤の根源に は、結局、1965年の日韓基本条約で解決されな



登壇中の勝谷太治司教

かった日韓両政府の歴史問題をめぐる認識に溝 があること。これまでの日韓交流は、歴史問題 への真剣な省察を看過し、経済のみに集中して きたが、北東アジアの平和を維持するためにも、 日韓が歴史問題をより積極的に、真剣で誠実な 省察に取り組んでいくべきだとした。

韓国市民が軍事独裁政権と闘った1970~80 年代の民主化運動においては、日韓市民の間に 密接な協力があった。この歴史の資産を大切に し、今後も日韓の市民、宗教、教会、また学者 たちの緊密な連携を推進すべきであること。

また映画、ドラマ、アニメーションなどは、 日韓の特に若い世代を結ぶ重要なファクターに なっており、これを歴史教育にも生かしていく ことが重要である。

韓国と日本の教会は、さらに共に祈り、連携 していくべきだ。とりわけ「日韓司教交流会」 の趣旨のもとで教会内の交流と協力を増やし、 共に歴史を学び、「反日」や「嫌韓」などの感 情をなくすこと。また両国関係悪化のもとで最 も大きな苦痛を感じている「在日韓国・朝鮮 人」の状況を理解し、改善していく取り組みが 必要であることを確認した。

# 第 2 回 シロツメクサの花かんむり

## クリスマスにウケないお話 ~最初の訪問者~

## ■ えなこさいち (生活介護事業所職員)

はじめまして、えなこさいちと申します。

わたしは現在、教会をほぼ離れてしまってい る者です。そんな人間がこんなところに登場し てよいのか? 正義と平和協議会さんは「いい んです!」とおっしゃる……ほんとうにいいん ですかねぇ!? いずれは自分の身の上について お話しさせていただくことになっていくかも知 れませんが、ここでつづらせていただく拙文に も、わたしが教会から「避難」した理由がちら ほらと出てくるのではないかと予想しています。

まずはこれまでの人生の4分の3をキリスト 者として生きてきた中で感じたこと、学んだこ と、考えたことなど記させていただこうと思っ ています。

さて、12月です。今回は、かつてクリスマス 毎に教会などでさせていただいていた「ウケな い | お話を……。

この季節に教会に設けられる、イエス誕生の 場面を再現した「馬小屋」には、イエス、マリ アとヨセフのほかに、イエスを初めて訪ねた人 びととして、占星術の学者と羊飼いの人形が置 かれることも多いですね。

イエスの誕生において、この人びとの訪問が とても大切なメッセージとなっています。イエ スの最初の訪問者について、マタイ福音書2章 は占星術の学者を、ルカ福音書2章は羊飼いを 登場させます。

まず占星術の学者。「学者」なんて言うと 「権威ある人さえも幼子イエスの前にひれ伏し た と捉えがちです。イエスの時代には占星術、 つまり星占いのための天体研究が天文学であり、 ここでいう「学者」とは、学識者というよりさ しずめ「星占いの研究者」といったところ。

当時のユダヤの人びとは、度重なる異教徒の 支配の中で「異教徒もひれ伏さずにおれない、 力強く栄光に満ちた姿で救い主は現れる」と期 待していたようです。カリスマのあるヒーロー

をリーダー像に求める今の社会と通じますね。 でも実際には、わたしたちと同じように、ひと りの母親から、守り育てる者がいなければ生き られないか弱い赤ん坊として、ひっそりと救い 主はみずからをあらわします。さらにマタイは イエスとその家族が難民として追われる姿も記 しています。既に救い主の誕生から徹底して低 みに立つイエスの生きざまが明らかです。しか し、人びとは自分の思いに固執し、やがてイエ スを死に追いやるのです。

占星術の学者たちについて、マタイは「東 方」から来たとしています。「東」はユダヤの 人びとにしてみれば、救いに与かることのない 異邦人の住む穢れた地と見なされ、神以外によ り頼む占いを禁じていたユダヤ人には、占いを 生業にする異邦人など、関わってはならない穢 れた人びとと見なされたでしょう。

そして羊飼いですが、やはりわたしたちは 「貧しくとも素朴で善良な人たち」といったイ メージを抱きがちです。しかし当時のユダヤ社 会では、定住せず異邦の地にも入り込みながら 生活する羊飼いは、いわゆる「賤業」と見なさ れ、「不正直な、ならず者」とさえ言われてい たようです。

占星術の学者も羊飼いも、「異教徒を滅ぼす 力強い」救い主を待ち望んでいた人びとにとっ ては、とうてい救い主と最初に出会うなど思い もおよばなかった人びとです。

苦しさ、悲しさ、寂しさ、悔しさ、怒り…忌 避され、抑圧された人の側に立つ。このような 生きざまを、その誕生から揺るぎなく示され たかたを、キリスト者は「信じます」、つまり、 わたしもイエスを生きます!と宣言しているわ けです。

人を排除し、貶め、その尊厳を踏みにじるよ うな社会であるなら、イエスの誕生物語にあら われる"神の思い"を知っているはずの教会、キ リスト者が真っ先に声をあげる、わたしは当然 だと思っているのですけれど……!?

#### 目次



特集 女性たちの声と教会

聖書翻訳についてフェミニスト神学から願うこと ……… 山口里子

韓国のミレニアム世代が平和と人権を愛する方法 一慰安婦問題の解決と暴力のない世界のための青年の連帯一

太陽か、月か、あるいは両方 ……………… 栗田隆子

(連載第2回)高江・新月の森から…

日韓和解への歩みの一歩 ……………光延一郎 10

(連載第2回)シロツメクサの花かんむり 11 クリスマスにウケないお話~最初の訪問者~ \*\*\*\*\*\*\* えなこさいち

まんが「修練者の石橋さん」 12

etc 長崎教区

表紙写真 「水曜集会」ある水曜日のソウル在韓日本大使館前

## 長崎教区

## 長崎教区から

教皇フランシスコ訪日にあわせ、11人の在韓被爆者が、カトリック平和団体、韓国 パックスクリスティとともに11月24日の長崎での教皇ミサに与るために来日した。ミサ 後、日本人被爆者とともに、浦上教会(長崎教区)にて集いの時間をもった。在韓被 爆者は日本統治下での労働動員などによって広島や長崎に移住し、被爆。その数は 7万、原爆による広島、長崎の被爆者総数の1割にのぼると言われる。しかし、日本 政府による被爆者補償の枠外に置かれ、その存在さえ知られることがなかった。1957 年から始まった被爆者健康手帳も、在韓被爆者が初めて手にしたのは、ようやく78年

正義と平和えとせとら…





のことだった。このようななかでの、日韓被爆者の祈りの集いの意味は、きわめて大きい。詳細は次号IP通信220号にて

#### 編集後記

教皇フランシスコが日本に到着した23日の午後、長崎でミサにあずかる在韓被爆者の方々が、福岡空港で入国を認められず、5時間、 入国ロビーで待たされるという事件があった。広島・長崎の原爆投下で被爆した朝鮮半島出身者は、日本では長く存在すら知られる ことはなかったことは上で述べた(韓国内でも、自分から被爆者であると名乗り出る人は多くなく、2010年時点で総数にして2600 人程度だそうだ)。広島や長崎の町の片隅で、貧しく不当に扱われながら確かに生活を営んでいたその人たちは、戦後、ずっと歴史の 記憶から消し去られていた。これが、差別というものなのではないだろうか。ある属性の人たちを、無自覚に視界の外に追いやるこ と。だから、差別していることを、差別する側には自覚できない。自分には見えない(ようにする)のだから。そうして、差別される 側が自ら、差別者たちの視界に入ろうとすれば、思いがけない抵抗が待っている。今回、福岡空港で起きた事件は、それを象徴的に 示していたように思われる。教会の長い歴史の中の女性たちは、どうだろう。私たちの視界に、彼女たちは入っているのか。(h.)



**発 行 日** 2019年12月1日 (隔月発行) 日本カトリック正義と平和協議会 〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 TEL.03-5632-4444 FAX.03-5632-7920 E-mail jccjp@cbcj.catholic.jp

購 読 料 年 1,500円(送料共) 郵便振替 00190-8-100347 加入者名 カトリック正義と平和協議会

http://www.jccjp.org

